

小中一貫教育校の開校について

本区では、小学校と中学校が隣接した5か所について、小中一貫教育校として開校を目指している。このうち、平成21年度に小中一貫教育モデル校に指定し取組みを進めてきた高砂小学校と高砂中学校について、区内2番目の小中一貫教育校として、平成24年4月1日に開校する。

1 小中一貫教育校の呼称

高砂けやき学園

2 小中一貫教育校の概要

- (1) 現行の6・3制度を維持しながら、小・中学校の教職員の連携の下、各教科指導、生活指導、進路指導（キャリア教育）等の系統化を進め、連続性・持続性のあるきめ細かな教育を実現する。
- (2) 各教科において9年間を見通した指導計画等を作成して、子どもの発達段階に応じた教育活動を実施する。
- (3) 小学校5年生から一部の教科で教科担任制を段階的に導入するとともに、部活動交流を推進する。
- (4) 授業・スポーツ・読書活動・学校行事など様々な機会を活用して小学生と中学生の交流を図り、社会性や豊かな人間性を育む。
- (5) 近隣の小学校との連携を更に充実するとともに、地域全体から支援される小中一貫教育校を目指す。

3 小中一貫教育校の管理運営

(1) 学園長及び副学園長

高砂けやき学園に学園長及び副学園長を置く。

(2) 学園経営会議

学園長、副学園長及び副校長で構成する学園経営会議を置き、学園の教育計画など管理運営に関する方針を審議し、決定する。

(3) 管理運営要綱

前記(1)～(2)を含めて、高砂けやき学園の管理運営に関し必要な事項については、「葛飾区小中一貫教育校高砂けやき学園管理運営要綱」に定める。

4 小中一貫教育校の通学区域と学校選択制

現行の小中学校の選択制の考え方を基本としつつ、高砂中学校の通学区域に住所がある児童については、優先的に入学できるように配慮する。

なお、受け入れ人数に余裕がある場合は、弾力的に対応する。

5 開校に向けた推進体制

- (1) 両校では、小・中学校合同の研修会等を定期的を開催するとともに、推進委員会、事務局部会、作業部会（教育課程部会、学習指導部会、生活指導部会、学校行事部会、研修部会）を設け、開校に向けて組織的に一体となって様々な検討を重ねている。
- (2) 地域や保護者の理解と協力を得ながら、一緒になって小中一貫教育校をつくり上げるため、「高砂地区小中一貫教育校推進協議会」（以下「推進協議会」という。）を設け、開校に向けた話し合いを行っている。また、小中一貫教育校の校名（呼称）・校章・校歌・標準服を定めることにより、小中一貫教育校としての一体感や愛校心などを育むことができるため、推進協議会の下に「学校シンボル検討部会」を設け、検討を行っている。

6 平成22年度の主な取組み

- (1) 小学校と中学校の校舎（南北）をつなぐ渡り廊下の設置（境界の壁の一部撤去）
- (2) 義務教育9年間を見通した指導計画等の作成
- (3) 小学校と中学校の時程の変更
「朝の活動時間、3時間目の始まり、5時間目の始まり」を揃えた。
- (4) 小学校と中学校の具体的な連携（例）
 - ① 授業交流（出授業、授業参加）の実施
 - ② 高砂ハローワークの実施（中学校主体で実施：中1～3、小6）
 - ③ 日本の伝統文化・武道体験（小学校主体で実施：小6、中1）
 - ④ 中学校へ出向いての部活動体験・合同部活動（小6）
 - ⑤ 小学校運動会に参加してのお世話活動（中）
 - ⑥ 小学校へ出向いての「読み聞かせ」活動（中）
 - ⑦ 細田小学校との交流（書写・図工の作品交流、中学校での部活動体験）

7 今後の開校に向けた主な取組み

- (1) 小学校と中学校の授業交流・行事交流・部活動交流の拡大
- (2) 細田小学校との授業交流や行事交流の拡大
- (3) 小中一貫教育校「高砂けやき学園」としての開校式
平成24年4月中に実施予定

高砂小中一貫教育校の開校に向けて

目指す学校像

未来を切り拓く生きる力を身に付け、自立できる子

- 確かな学力の育成
- 豊かな心の育成
- 健やかな体の育成
- 地域の発展に貢献できる人材の育成

指導の方針

- ☆義務教育9年間をとおした連続性・接続性のあるきめ細かな教育を推進する
- ☆小中の教員が互いに交流をし、ともに児童・生徒を育てる
- ☆地域との連携を強化し、地域の人材を活用した教育活動や学校支援体制を築いていく

義務教育9年間を見通したカリキュラム

教科担任制	中3	発展	<p>社会で自立して生きていく基礎づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆自己肯定感・自己有用感の創造と積極的な自己実現に向けて表現できる力を伸ばす ☆進路希望の実現を目指す
	中2		
担任制	中1	拡充	<p>小学校から中学校へのスムーズな移行</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆小学校からの教科担任制を採用し、充実した学びの実現を目指す ☆体験的な学習(武道体験/部活交流)、小中の授業観察と実際の交流の機会を増やす
	小6		
	小5		
学級担任制	小4	基礎形成	<p>生きる意欲や人間関係の基盤を構築する時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆きめ細かな指導により基礎的・基本的な知識・技能について徹底して習得させ、学習する力を育てる ☆基本的な生活習慣を確立させる
	小3		
	小2		
	小1		

高砂小学校

高砂中学校

教育目標 ☆中学校の教育目標を15歳の到達目標として考える

ひびきあう子 かがやく子

自主 敬愛 協調

学習目標

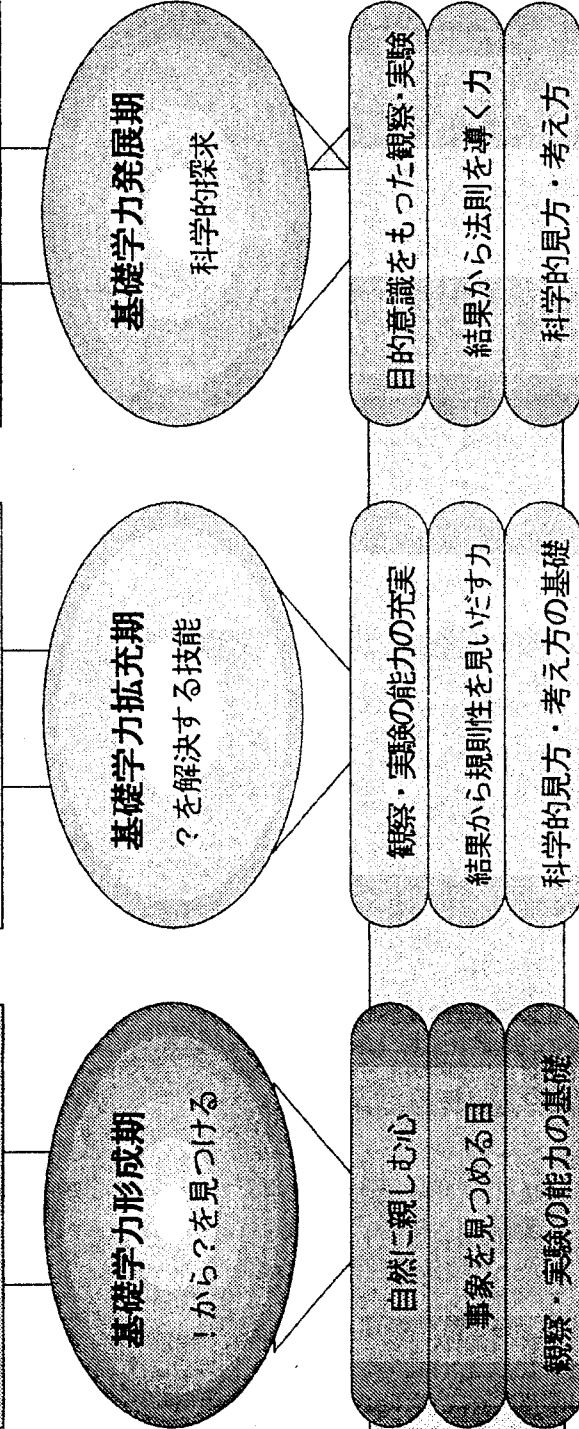
- ・ 具体的な活動や体験を通して自然とのかかわりに関心をもつ。
- ・ 見いだした問題に興味・関心をもって追求する活動を通して、自然の事象に対する見方や考え方を養う。

- ・ 自然の事物・現象について見いだした問題を計画的に追求する活動を通して、実感を伴った理解的な見方や考え方の基礎を養う。

- ・ 事物事象に深く関わり、目的意識をもって観察実験を行い、科学的に探求する能力と態度を養うとともに、自然と事物への理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

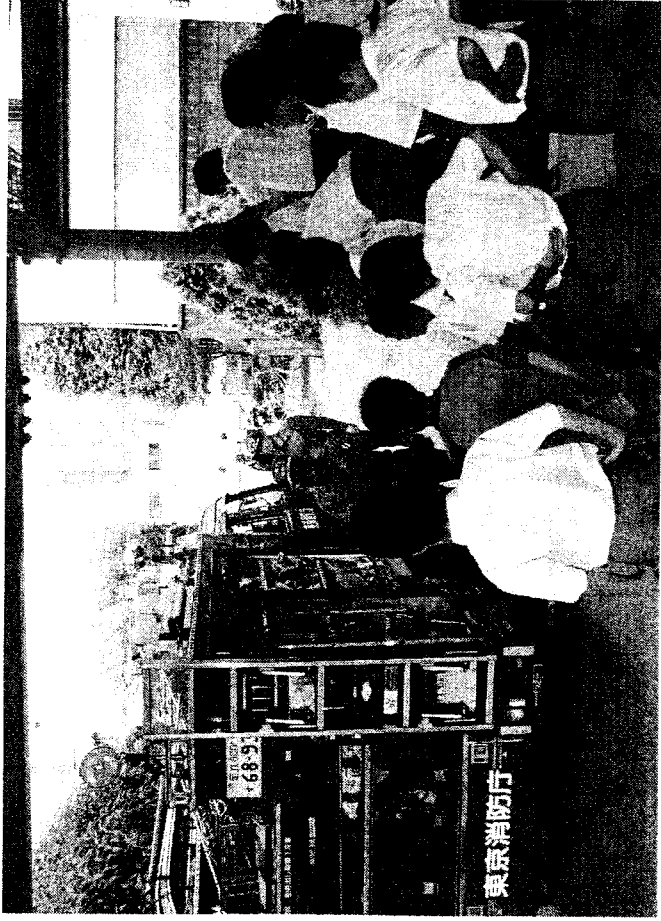
生活・理科

- 義務教育修了時の生徒の姿**
- ・ 自然の事物・現象に興味・関心をもち、習得した知識と関連づけて考えられる
 - ・ 問題解決の方法を自ら考え、検証し、表現できる
 - ・ 科学的な見方・考え方がでさる

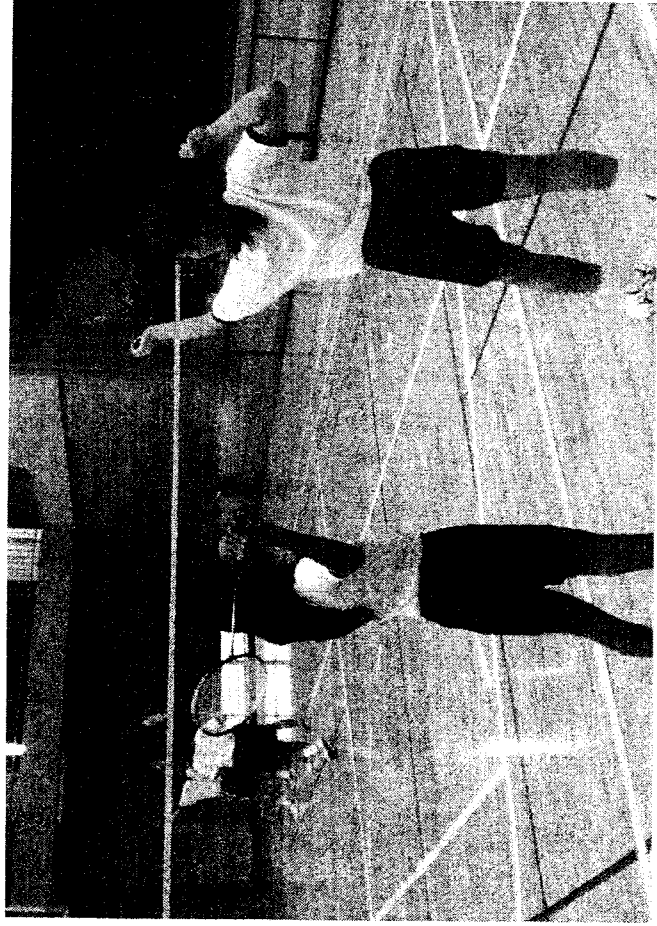


学習ステージ	小学校			中学校						
	小学校1年	小学校2年	小学校3年	小学校4年	小学校5年	小学校6年	中学校1年	中学校2年	中学校3年	
特徴	基礎学力形成期									
基礎的、基本的な知識、技能の育成	基礎学力拡充期									
言語活動の充実	直接体験の重視、活動の深まりや広がりに配慮した柔軟な指導	興味・関心をもって追求する観察・実験の重視、安全の指導	図・絵・文を用いた結果の表現、観察記録の必須事項の習得	図・絵・文を用いた結果の表現、観察記録の必須事項の習得	実験計画の思考・表現、図・絵・文を用いた結果の表現	目的意識をもって観察実験の技能の計画的に追求する観察実験の重視、観察実験の技能の指導、安全の指導	目的意識をもって実験を計画し、検証する場の設定	基礎学力発展期		
教科の重点的な取り組み	様々な気付きの表現(言葉・絵・動作化・劇化)	直接働きかける活動と表現する活動の関連させる	自然の事象の差違点や共通点、変化と要因の関連に気付かせる	自然の事象の差違点や共通点、変化と要因の関連に気付かせる	条件制衡の能力の育成	変化の要因や規則性、関連を推論する能力の育成	結果の論理的な思考・表現	検証した結果から法則を見いだす能力の育成		

▼高砂ハローワークの様子(消防士を招いてのもの)



▼中学校へ出向いての部活動体験の様子



▼日本の伝統文化・武道体験の様子(茶道)



▼小学校へ出向いての「読み聞かせ」活動の様子

